

\$\$明星(白川小だより)\$\$

HPで『白川小だより』
をご覧くださいませ。
白川小学校で検索を!

令和2年2月25日発行
第57号
文責:三谷



『であい、ふれあい、そして未来へ』~自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成~

\$ 地域の Teacher から昔遊びを伝授 \$ ←2月18日(火)

佐野重雄さん、打田一生さんから、1・2年生の子どもたちが昔の遊びを教えてくださいました。前半は、独楽回しやブンブンゴマ、輪回しを教えてくださいました。輪回しをするときには、車輪の溝から棒が離れないよう保持して車輪を回す必要があります。そのことは保持と回すという2つの動作を同時にしなければなりません。つまり、バランス感覚(一種の体感)が必要となります。なかなか上手く回らずに苦戦している子どももいましたが、何度も挑戦して一生懸命に上手く回るように頑張っていました。また、後半は昔の鬼ごっこも教えてくださいました。

昔は身の回りにあるものを使って、自分たちで遊ぶ道具も試行錯誤しながら作った覚えがあります。そのような中で失敗もしながら、「どうしたら上手くできるかな」と考えたこと(コツ)を子どもたちにも経験してほしいと感じる有意義な時間となりました。



\$ 小学校ってどんなところ??? \$ ←2月18日(火)

関認定子ども園アスレの年長児(41名)が本校を訪問しました。4月からそれぞれの小学校へ入学する子どもたちが、「小学校ってどんなところだろう」と興味深々に園の先生とともに、普通教室や特別教室を見学していました。本校にもアスレ卒園の子どもも在学していますが、懐かしそうに園の先生とお話している姿が印象的でした。来年度アスレからも1名の子どもが入学してきます。



＄ 第5回学校運営協議会 －2月20日(木)

本年度最後の学校運営協議会（コミュニティースクール会議）が行われました。本年度も多岐にわたる体験学習を中心にお世話になりありがとうございました。子どもたちにとってはたくさん得るものがありました。子どもたちは、様々な体験（経験）を通して、人とのコミュニケーションの大切さやものづくりにおける喜びや苦労を学んでいきます。また、それぞれの体験から何を学ぶのか、その一端を子どもたちが体感することで、これからの時代・地域を担う子どもたちにとって成長の一助となり有意義であると考えます。来年度も引き続き宜しくお願い致します。



＄ 学校も冬景色 －2月18日(火)

暖冬と言われている今年の冬でしたが、立春も過ぎ、春に近づこうとしている中、今季2回目の寒波が降りてきました。朝もチラチラ雪が舞い寒い日となりました。

子どもたちも、朝の集合場所の公園で早速雪だるまを作って遊んでいる姿を見受けました。「校長先生、これって」、雪で作った団子を見せてくれる子もいました。

風邪・インフルエンザ等には十分注意してください。



＝白川小コラム＝

3月3日(火)はひなまつりです



「ひな祭り」と言えば、雛人形を飾り、ちらし寿司やハマグリのお吸い物を食べて女の子の健やかな成長を願う伝統行事です。しかしこのひな祭り、元は今とは少し違う行事だったのをご存知でしょうか。ひな祭りの起源は、季節の変わり目に災難や厄から身を守り、よりよい幕開けを願うための節句が始まりとされています。また、ひな祭りに欠かせないひな人形も、昔は飾るのではなく川に流されていたと聞いたら、驚くのではないのでしょうか？日本には数多くの伝統行事がありますが、現代に生きる多くの方はその本当の意味を知らずにあります。ひな祭りもまたその一つだと思いますが、今回はここで、ひな祭りについて詳しく知る機会を得てはみませんか？

まず1つ目の話は、「上巳の節句」についてです。上巳の節句とは中国から伝わった五節句の一つで、三月上旬の巳の日に、草や藁で作った人形（ひとがた）で自分の体を撫でて穢れを移し、それを川に流すことで厄払いや邪気祓いを行う風習がありました。また一方、貴族階級の女の子の間では、紙の人形を使った遊び、今で言うところの「おままごと」が流行っていました。これを「ひいな遊び」と言うのですが、このひいな遊びと川に流す人形（ひとがた）が結びついて「流し雛」が誕生しました。さらに江戸時代になると、人形作りの技術が向上したことで川に流すのではなく家で飾るように変化してきたと言われています。